

平成28年度平塚市子ども・子育て会議
第1回子育て支援事業推進部会 会議概要

日時：平成29年3月14日（火）13時30分～15時25分
場所：平塚市博物館 講堂（1階）

1 議事

(1) 平塚市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価（第4章部分）

本議事について、事務局から資料「事業評価シート まとめ（第4章部分）」に沿って、各事業における評価と今後の事業展開等について説明を行った。

【質疑応答は次のとおり】

基本目標1

・1（3）4 夏休みこども環境教室事業

委員：今後の事業展開とその判断理由が、③縮小して継続となっているが、なぜ縮小となったのか。

事務局：担当課ではないので推測だが、遊漁船の借用費削減のため、縮小したのではないかと考えられる。

委員：遊漁船を使用しなくても、学習効果が得られるためということか。

事務局：はい。

・1（3）9 芸術文化子ども体験事業

委員：事業を開催する地区数は増加しているが、参加人数は減少している。地区数を増加することは委託事業者に対する負担が大きく、地区数を増やすことが目的ではないはずである。そのため、評価がAとはどうなのか。

事務局：担当課は、地区数が増えているため評価をAとしていると考えられる。委員からいただいた意見について担当課へ投げかけ、回答させていただく。

委員：当事業に関わっているが、廃止も検討している。

委員：事業評価シートの評価の付け方はどのように実施しているのか。

事務局：担当課で自己点検を行い、A、B、Cで評価付けをしている。担当課の評価に御意見がある場合、この場で頂戴できればと思う。

基本目標2

委員：公立園の在り方の検討についてだが、入所の受入れの現状として、面積は足りているが保育士が足りていない。今後、面積が足りておらず入所の受入れが出来ていない場合は、廃園予定の公立園に対して耐震補強等を行い、使用することが可能であれば待機児童削減に貢献できると思う。今後の検討として取り入

れてもらえればと思う。

事務局：現在の計画上、廃園となる園で耐震補強をしていない園の再活用は、検討していない。

委員：民間が耐震補強をする場合は、どうなのか。

事務局：廃園となる園は、取り壊す予定となっている。今回の御意見を頂戴し、検討課題の一つと捉える。

委員：少子化等を踏まえると、新しい施設を設置する必要はないと思う。既存の保育園と幼稚園を有効活用することで、待機児童問題を解消していきたい。

事務局：平塚市でも少子化は進んでいるが、平成27年・平成28年は、0歳から4歳の子どもの増加している。このような状況も踏まえ、検討していきたい。

・2(2)4 赤ちゃん広場事業

委員：須賀保育園が港こども園になるにあたり、赤ちゃん広場事業が1園減少するが、他の相談先等はあるのか。

事務局：港こども園3階に、地域子育て支援拠点事業つどいの広場が開所する。つどいの広場は、親子で自由に遊べる場所であり、アドバイザーへ相談できる場所である。この広場で、対応することができると考えている。

委員：1歳未満の子どもについて相談ができるよう、引き続き対応をお願いしたい。

基本目標3

・3(2)1 教育相談体制の充実事業

委員：今後の事業展開とその判断理由が②拡大して継続となっているが、どういうことか。

事務局：発達に障がいのある子どもへの対応について、未就学児は評価を得ているが、就学する際に少し途絶えてしまう現状がある。就学後も切れ目ない支援を行うために拡大が必要となる。

・3(2)2 スクールカウンセラー派遣事業

委員：スクールカウンセラーの勤務日の増加を依頼しているが実施されていない。検証結果がAとなっているが、どういうことか。

事務局：スクールカウンセラーを必要とする子どもは増加している。若干日数は、増加しているが、今後カウンセラーの人数を増やした方がいいのか、勤務日を増やした方がいいのか検討する。予算の範囲内で対応していきたい。

委員：スクールカウンセラーは、スケジュールが詰まっている。面談等も、2週間に1回だと状況も変わってしまう。そのため、是非検討していただきたい。

基本目標4

委員：子どもの交通安全についてだが、登校途中に車が突っ込んでくるニュースが多

い。通学路等の整備はどうなっているのか。

事務局：4（1）2歩道設置事業、4（2）4通学路安全対策事業を実施している。

委員：4（2）4通学路安全対策事業の補助金については、見守りのためのベストの購入等で活用した。併せて、歩道や車道等のハード面の整備もお願いしたい。

事務局：意見として担当課へ伝える。

委員：ハード面ではなく、ソフト面では何かあるか。

事務局：平塚市は平坦なので、自転車の利用が多いことが特徴である。危険なところの点検実施や警察や地域の方とも連携して整備をしている。様々な取り組みをしているが、ハード面に関してはお金がかかり、整備するには多くの基準があるためなかなか難しい。ハード面だけではなくソフト面も含め、子どもを守るために整備を進めていきたい。

基本目標5

・5（1）②6 5歳児健康診査

委員：5歳児向けの診査をするということは、5歳児について何か問題があるということか。

事務局：就学前の診査ということで、未就学から就学するにあたり継続して行う支援の一環と捉えていただければと思う。

・5（3）2 ファミリー・サポート事業

委員：会員数は増加しているが、活動件数は減っている。どういうことなのか説明をいただきたい

事務局：例えば、毎日送迎を依頼している依頼会員の子どもが成長し、支援が必要なくなった場合、かなりの件数減少となる。また、毎日の支援は必要ないが、随時支援を依頼する会員が増加しているため、活動件数は減少している。会員も1500人を突破し、ファミリー・サポート・センター事務局の体制を強化し、更なる円滑な支援に繋げていく。

委員：活動件数の増加が良いことなのかは一概には言えないと思うので、変化した状況を事業評価シートに記載してほしい。

基本目標1～5 全体を通して

・2（6）3 母子生活支援施設の充実

委員：入所者が0人と記載があるが、困っている人がいなくなったということか。また、今後は対象となる人に対して、何か対応をするのか。

事務局：老朽化やエアコン、トイレ、風呂なし等の状況を踏まえ、総合的に判断して廃止とする。今後支援が必要な方に対しては、訪問して支援することを検討し、入所が必要な方に対しては、他市や県の施設を利用して対応する。

委員：費用対効果があるから実施するのか、子どもに必要と判断すれば実施するのか、目標が明確ではなく評価しづらい。また、取組みについて詳細まで記載してある事業と大まかな内容のみ記載の事業と様々である。

事務局：限られた予算の中で最大限の効果を出すよう努力している。評価の仕方については、事務局でも検討しており、なるべく御意見いただけるよう模索していく。

(2) 平塚市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価（第5章部分）

本議事について、事務局から資料「事業評価シート まとめ（第5章部分）」に沿って、各事業における評価と今後の事業展開等について説明を行った。また、資料「ひらつかネウボラールーム はぐくみ」「平塚市子育て世代包括支援センターイメージ」に沿って、平成29年度から開始する事業について説明を行った。

委員：母子手帳の交付については、どのようになるのか。

事務局：事前予約制となり、交付場所は保健センターのみとなる。一般的な相談は予約不要であり、電話相談も受け付ける。

・放課後児童健全育成事業（学童保育）

委員：学童保育は、全員入れているのか。また、定員はあるのか。

事務局：ニーズ量に見合う提供量は確保されている。集団の規模としては、おおむね40名とされている。

委員：港こども園内の学童保育は、定員超過していないのか。

事務局：学童保育へ登録している人全員が毎日利用するとも限らないため、その点を考慮して受け入れを行っている。

委員：敷地面積の基準等はあるのか。

事務局：児童一人あたりおおむね1.65㎡という基準はある。子ども・子育て支援新制度導入後、5年間の経過措置が取られている。

出席者：落合委員、黒田委員、酒井委員、田代委員、鷺尾委員、高橋委員、山口委員、津島委員、鈴木委員

傍聴者：なし

事務局：健康・こども部長、保育課長、教育総務課長、保育課3名、こども家庭課2名、健康課1名、青少年課1名、教育総務課2名、教育指導課1名

以上